


■ 学校の共通目標

授業作り	重点	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた指導を充実させ、基礎的・基本的な知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力の向上を図る。</li> <li>「新宿版GIGAスクール構想」の下、各教科においてICT機器を効果的に活用し、全ての児童にとって「分かる授業」を展開する。</li> <li>主体的・対話的で深い学びのできる児童を育成するため、全教科を通して思考力、判断力、表現力が育つような指導の充実を図る。昨年度に引き続き、児童同士が互いの考えを伝え合い、深く考えることで、共に学び合う児童を育成する授業作りをしていく。</li> </ul>	中間評価		最終評価	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>学習目標や学習活動の明確化、視覚に訴える手立ての活用等、ユニバーサルデザインの視点を生かした学習環境づくりを進める。</li> <li>OJTの機会などを活用して、各教員がICT機器を活用した授業実践などを紹介し合うようにする。</li> </ul>				
環境作り						

■ 学年の取組内容

学年	教科	学習状況の分析（10月）	課題（10月）	改善のための取組（10月）	最終評価（2月）	
1	国語					
	算数					
学年	教科	学習状況の分析（4月）	課題（4月）	改善のための取組（4月）	中間評価・追加する取組（10月）	最終評価（2月）
2	国語	<small>学</small> 1学年の漢字の学習テストの結果、1学年の漢字は8割の児童が身に付いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字やひらがなの筆順に気を付けて正しく書くこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字指導の際に、ICT機器を活用して筆順の指導を行う。また、デジタルドリルでも筆順や画数を意識して取り組めるように指導する。</li> </ul>	中間評価・追加する取組（10月）  最終評価（2月）	
		<small>学</small> 言葉探しなどの学習で、言葉をたくさん見付けられる児童とそうでない児童の差が大きい。	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童一人一人が語彙力を増やすこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>読書の時間に4類（自然科学）や5類（技術・工学・工業）などの本も手に取れるように意図的な読書を計画し、いろいろなジャンルの本に触れさせる。国語のレシピを作成し、季節の言葉集めや、物語での言葉集めなどに取り組み、積み重ねることで語彙を増やす。</li> </ul>		
		<small>学</small> 話の聞く際に、説明をしたことを繰り返し聞き返す児童が多く、話を途中で遮る児童もいる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>最後まで話をしっかり聞くこと。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>話を聞く姿勢（体を話し手に向ける。耳だけでなく目で聞くなど）を徹底する。話をさえぎる子には、その都度自分の行動をふり返らせるような声かけをする。</li> </ul>		

	算数	<p>学 自分の考えをノートに記入する際、時間がかかったり、自分の考えを書いたりすることのできない児童がいる。</p> <p>学 1年生の復習をした際、ほぼ9割の児童は80点以上だったが、時計の学習と文章問題の立式に課題が見られた。</p> <p>学 文章題の「どちらがいくつ多い」「ちがいはいくつ」の正答率が低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを適切に表現すること</li> <li>時計を意識し、時刻を読み取ることができるようにすること。</li> <li>文章題を読み取ることや立式をすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ノート指導の際に教科書の解き方をモデルにしたり、交流活動を取り入れたりして、様々な考えに触れさせてから、ノートに記述させる。</li> <li>日常生活から時計を意識させ、時刻を読み取る練習を行う。</li> <li>立式する際に、絵やテープ図、数直線などを活用して考えさせ、立式と関連付けられるようにする。文章題の大切な部分に線を引かせる。</li> </ul>		
3	国語	<p>学漢字の学習に意欲的に取り組む児童が多く、2年生までに習った漢字を適切に使うことができている。</p> <p>学大事な部分を落とさずに聞いたり、相手の話を受けて質問をしたりすることに課題が見られる。</p> <p>調決められた分量や条件で文章を書くことに課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>3年生に配当されている漢字の読み書きを確実にできるようにすること。</li> <li>大事な部分を落とさずに聞いたり、相手の話を受けて質問をしたりすることができるようにすること。</li> <li>適切な段落分けや文末表現で、文章を書けるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>定期的なミニテストやデジタルドリルなどを活用した毎日の家庭学習で習熟を図る。戸三小漢字検定において、全ての児童が合格点を取れるようにする。</li> <li>「話すこと・聞くこと」の指導において、話し手と聞き手のポイントを確認し、児童が意識できるようにする。日頃から辞書を使う習慣を付けさせ、使える語彙を増やしていく。</li> <li>毎週末の「あのねノート」の家庭学習を課すことや、単元のまとめに書く活動を取り入れ、書く力を育てていく。</li> </ul>		
	算数	<p>学問題場面を的確に捉え、自分の考えを積極的に書き表し、伝えようとする姿勢が見られる児童と、そうでない児童が二極化している。</p> <p>調乗法九九の定着、3桁の数を含まし算やひき算の習熟に課題が見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えを分かりやすく伝えることや、他者の考えとの共通点や相違点を見付けることができるようにすること。</li> <li>乗法九九や、3桁の数を含む計算技能を確実に定着させること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような方法で課題が解決できそうか、解決計画を立てる。交流の視点を提示し、ペアやグループで考えを交流することで、他者の考えに目を向けさせる。</li> <li>様々な数の計算、乗法九九の確認を行うことや、定期的に復習になる問題を宿題やデジタルドリルなどで取り混ぜ、繰り返し学習する。</li> </ul>		
4	国語	<p>学漢字の習得に課題が見られる。3年生で習った漢字の復習テストの平均点は71点であった。正しく書くことができても、文章で活用することが難しい児童が見られる。</p> <p>調自分の考えや、説明する文章を書くことに課題がある。昨年度の新宿区学力定着度調査「書くこと」の標準スコアが下回っていた。</p> <p>調ことわざや慣用語の知識が増えている。同調査「言葉の特徴や使い方に関する事項」は目標値を9pt上回った。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>当該学年に配当されている漢字を、正しく書けるようにすること。</li> <li>日常生活において、既習漢字を活用すること。</li> <li>文章の構成に沿って、自分の考えを分かりやすく表現したり、根拠を示して書いたりすること。</li> <li>国語辞典で調べた熟語の意味を理解して活用できるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルドリルを授業や家庭学習で活用し、字形や書き順を含め、児童が漢字を正しく書けるようにする。</li> <li>新出漢字を学習する際に、辞典で熟語や文章を調べる活動を取り入れ、活用能力を伸ばす。</li> <li>自分の考えや調べたことを整理するために付箋やメモを活用する。「はじめ、中、終わり」の構成を基本とし、伝えたいことに合った文章構成、内容を考える習慣を付けさせる。</li> <li>週末に日記の宿題に取り混ぜ、出来事や気持ちを書くことへの抵抗感をなくす。</li> <li>漢字辞典の使い方を1学期中に指導する。漢字辞典、国語辞典を常に取り出せる場所に置き、意味調べや他教科での活動のときなど日常生活で活用していく。国語の授業では、辞典を使ったクイズゲームを取り入れるなど、楽しみながら語彙を増やし、活用できる力を付けていく。</li> </ul>		
	算数	<p>調基本的な計算技能が定着している。9割以上の児童が九九を使った乗法の筆算ができる。昨年度の新宿区定着度調査「知識・技能」は、正答率が80%で、目標値をおよそ6pt上回った。</p> <p>学意欲的に学習に取り組み、問題解決をしようとする児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な四則計算、筆算が定着していない児童が、学年相応の基本的な計算を正確に解けるようにすること。</li> <li>既習事項を活用して問題解決すること。計算の仕方や自分の考えを、聞き手が理解できるように、論理的に説明すること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>折に触れて加法及び減法の計算や乗法九九の確認を行う。デジタルドリルや東京ベーシック・ドリルを授業や家庭学習で活用し、習熟を図る。</li> <li>学習内容につまずいた時や、新たな問題解決をする時には、既習事項に戻ってポイントとなる事項を確認する。既習事項を活用して問題解決ができるようにする。</li> <li>自分の考えを表現するために適切な方法を選べるよう、自力解決の前に、解決のための手立てを確認する。</li> <li>ペアやグループ活動を取り入れ、自分の考えを表現する経験を積ませる。</li> </ul>		

5	国語	<p>調 昨年度の新宿区学力定着度調査「内容の中心を明確にし、事実と自分の考えを書く」の正答率が目標値をおよそ6pt下回っていた。</p> <p>学 自分の考えを伝えるように話したり、話し手の話の中心に気を付けながら終わりまで聞いたりすることに課題が見られる。</p> <p>学 既習の漢字について、止めやはねに気を付けて字形を整えて漢字を書くことが苦手な児童がいる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・段落の役割について理解し、事実と意見とを区別して書くこと。</li> <li>・自分の考えを伝えるように工夫して話したり、話し手の目的や内容を捉えて聞いたりすること</li> <li>・当該学年に担当されている漢字を、止めやはね、字形に気を付けて正しく書けるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 説明的文章の指導で、段落ごとの内容と全体の中での役割を考えさせる。文章を書くときに、事実と自分の考えを色別の付箋に書いて整理し、構成図を基に文章を書くようにする。国語に限らず、他教科でも事実と自分の考えを分けて文章を書く機会を多く設ける。</li> <li>➢ 年度当初から1分間スピーチを順番に行う。タブレットPCのオクリンクを使って資料を活用させてスピーチを行うなど、自分の考えが伝わるように表現を工夫させる。スピーチをした後に感想を伝えたり、聞き取った内容を短くまとめたりしていく。</li> <li>➢ 新出漢字を学習した後、1週間以内に漢字テストを行う。書けなかった漢字については文で練習をさせる。デジタルドリルを授業や家庭学習で活用し、字形や書き順を含め、児童が漢字を正しく書けるようにする。</li> </ul>	
	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査において、小数を用いて単位換算をする問題の正答率が40%を下回り、課題がある。</p> <p>学 既習事項を活用しながら、意欲的に問題解決しようとする児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単位のしくみを理解し、様々な単位換算ができるようにすること。</li> <li>・自分の考えを、根拠を示しながら論理的に説明できるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ デジタルドリルや東京ベーシック・ドリルを活用し、単位換算の問題を繰り返し行い、学習内容の定着を図る。面積や体積の指導では、辺の長さに注目させて図にして単位の換算をまとめたり、図を用いて単位のしくみを説明させたりして理解を深める。</li> <li>➢ 自力解決の場面では、図や文章、数直線など、様々な方法で自分の考えを表現させる。タブレット端末のオクリンクを積極的に活用し、考えを共有したり、説明し合ったりしていく。自分の考えを説明させるだけでなく、他の人の図や式から根拠を考えたり、代わりに説明させたりする。</li> </ul>	
6	国語	<p>調 新宿区学力定着度調査において、前年度までに学習した漢字の正答率が今年度学習した漢字の正答率の半数である。</p> <p>調 同調査において、自分の考えを文章に書く活動における基礎的な技能については、目標値を下回り、課題がある。</p> <p>学 発言する児童が少なく、自分の意見を皆に伝えることに関して苦手意識をもっている児童が多い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今までに学んできた漢字を確実に身に付け、それを活用すること。</li> <li>・段落の役割を理解し、意見を支える理由を明確に書けるようにすること。</li> <li>・自分の思いや考えを伝えられるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 全教科において、文章を書く際には既習漢字を活用することを指導し、タブレット端末も効果的に活用し漢字の用例や語彙を増やす。</li> <li>➢ デジタルドリルを授業や家庭学習で活用し、字形や書き順を含め、児童が漢字を正しく書けるようにする。</li> <li>➢ 全教科において、自分の思いや考えを分かりやすく書くことを繰り返し練習する機会を増やし、教師自ら書いた例文も提示することで、キーワードを意識しながら書く機会を作る。</li> <li>➢ タブレット端末のTeamsを効果的に活用し、少人数での話し合う場面を意図的に設ける。</li> </ul>	
	算数	<p>調 新宿区学力定着度調査において、合同な図形を求めたり、作図をしたりすることに課題がある。</p> <p>調 同調査において、単位量あたりの大きさにおいて、比例の関係を理解が目標値を下回っており、課題がある。</p> <p>学 基礎的な計算力については定着しているが、小数のかけ算・わり算においては正確に計算ができていないときがある。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正確な作図や、対応する辺や角を求めることができるようにすること。</li> <li>・数直線を用いて単位量あたりの大きさを正確に理解することができるようにすること。</li> <li>・学年相応の基本的な計算を正確に解けるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➢ デジタルドリルを活用し、繰り返し図形の問題を解いたり、作図の機会を多く作ったりする。</li> <li>➢ 様々な単元の中で、数直線をかいて答えを求める機会を意図的に設け、1あたりの量を意識させる指導を行う。</li> <li>➢ デジタルドリルを活用し、繰り返し計算問題を解き、自分の間違いに気が付くことの大切さについても1年間を通して継続して行う。</li> </ul>	

音楽	<p>学1年生は音楽に合わせて身体を動かすことや、簡単なリズム打ちをすることができる。2年生は、四分音符、四分休符、二分音符、八分音符のリズム打ちと指番号を守りながらキーボード演奏ができるようになった。</p> <p>学3年生は、五線内の譜読みができるようになったほか、決められた音を使って短い旋律を作ることができるようになった。けんばんハーモニカ奏をまだ実践できていない。4年生は、左手の運指をスムーズにリコーダー奏ができるようになったが、タンギングに個人差が見られる。</p> <p>学5、6年生は響きのある声で表現を工夫しながら歌うことができるようになったが、コロナ禍の影響で、二部合唱の実践ができなかった。リコーダー奏は、多くの児童が左手の運指に慣れていない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1年生 リズム譜をよんでリズムを叩けるようにすること。</li> <li>・2年生 キーボード奏で、指広げ、指狭めを定着させること。</li> <li>・3年生 リコーダー学習の前にけんばんハーモニカ奏の実践を通して、吹奏する感覚を身に付けさせること。</li> <li>・4年生 リコーダー奏において、左手の運指を定着させること。</li> <li>・5、6年生 二部合唱の実践を通して、表現を工夫しながら歌うこと。また、左手の運指に特化したリコーダー練習を行い、運指ができるようになること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 1年生はタンとウンのシンプルなりズム譜で、様々な音楽に合わせてリズムを叩く練習を重ねていく。</li> <li>➤ 2年生は同じ指の移動や指広げを含む曲の練習をするほか、ミニキーボード奏の常時活動でも継続して練習を重ねていく。</li> <li>➤ 3年生はけんばんハーモニカ奏で、四分休符と四分音符を用いた楽曲の練習を通して、タンギングをしながら吹奏する練習する。</li> <li>➤ 4年生はリコーダー奏においてソラシドレを用いたリコーダー楽曲の練習を通して左手の運指の練習を行う。</li> <li>➤ 5、6年生は輪唱活動を通して、常時的に声を重ねる活動を進めていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤</li> <li>➤</li> <li>➤</li> <li>➤</li> </ul>	
図工	<p>学低学年では、楽しみながら意欲的に活動に取り組む児童が多い。一つ一つの活動を丁寧に組み合わせることが苦手な児童も見られる。</p> <p>学中学年では、自分の思いを大切に活動に取り組む姿が見られるが、一つのことにとり強く丁寧に仕上げるのが難しい児童もいる。友達の表現のよさや工夫に目を向け、自分の活動に取り入れるなど意欲的な態度が見られる。</p> <p>学高学年では、活動に意欲的であるが、じっくり取り組むことが苦手な児童が見られる。また、作品の仕上がりに自信がもてず、なかなか取り組めないでいる姿も見られる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一つ一つの取り組みが次の活動につながっていくことを考えて取り組めるようにすること。</li> <li>・最後まで粘り強く自己表現ができるようにすること。</li> <li>・先を見通して計画的に取り組めるようにすること。</li> <li>・友達の表現のよさや工夫に目を向け、表現の多様性に気付けるようにすること。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤ 活動内容を短く区切ることで、丁寧に組み立てる。</li> <li>➤ 授業後に活動の振り返りをし、評価をすることで、次の活動につなげていく。</li> <li>➤ 本時の目標を明確にし、時間ごとの活動計画を提示する。</li> <li>➤ 課題ごとに鑑賞する場を設ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>➤</li> <li>➤</li> <li>➤</li> </ul>	

調…新宿区学力定着度調査の結果から見える学習状況

学…授業での様子や提出物、作品、ワークテスト、デジタルドリル等から見える学習の状況

※分量は2ページ以上となってもよい。